

小 学 校

平成 2 6 年度

教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

目 次

研究主題	1
------	---

第3学年及び第4学年分科会

I 研究主題設定の理由	2
II 研究の仮説	2
III 研究構想図	3
IV 研究の内容	4
V 実践事例	5
VI 研究の成果	8
VII 研究の課題	8

第5学年分科会

I 研究主題設定の理由	9
II 研究の仮説	9
III 研究構想図	10
IV 研究の内容	11
V 実践事例	13
VI 研究の成果	16
VII 研究の課題	16

第6学年分科会

I 研究主題設定の理由	17
II 研究の仮説	17
III 研究構想図	18
IV 研究の内容	19
V 実践事例	20
VI 研究の成果	24
VII 研究の課題	24

問題解決的な学習を通して、児童が主体的に考えて表現するための指導の工夫

平成 25 年 4 月に策定された「東京都教育ビジョン（第 3 次）」では、「グローバル化の進展など、変化の激しいこれからの社会を生き抜くためには、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力が求められる。さらに、社会の一員としての我が国や社会を発展させていくためには公共の精神をもち、社会に主体的に参画し、よりよい国づくり、社会づくりに主体的に取り組む力を身に付けることが求められる。」¹と示されている。

このことから、本部会では児童にこれからの社会の変化に、主体的に対応できる資質・能力を育成することが必要であると考えた。

また、平成 26 年 7 月に実施された「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の小学校社会に関する結果を見ると、「社会的な思考・判断・表現」（68.9%）と「読み解く力に関する内容」（53.2%）の全都平均正答率は他の項目と比べ低く、課題があることが分かった。そこで、授業の中で習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用して考えたり、資料などから必要な情報を読み取り、比較、関連、総合して社会的事象の意味を考えたりする活動の充実を図ることで「思考力・判断力・表現力その他の能力」を高めていきたいと考えた。

さらに本部会において、社会科における思考力・判断力・表現力等を育成する授業場面について検討を重ねた結果、学習問題を見いだすまでは意欲的に追究しようとするが、調べたりまとめたりしていく過程では追究意欲が持続せず、社会的事象と自分との関わりについて考えることが難しい実態や、社会的事象を調べる過程において、見通しとふり返りが十分に行われていないため、意欲が継続せず、社会的事象の意味を考えるまでに至らないといった実態が見られた。

これらのことから、児童が問いをもち、社会的事象と自分とのつながりを見だし、主体的に考え表現する能力を育成するために、問題解決的な学習の充実を図っていくこととした。

以上から、本部会では、研究主題を「問題解決的な学習を通して、児童が主体的に考えて表現するための指導の工夫」と設定した。

本部会では「児童が主体的に考え表現する」姿を、「社会的事象に関心をもち、学習問題を解決するために意欲的に調べることを通して、社会的事象の意味について考え、表現すること」と定義し、各学年部会で手立てを講じていくこととした。

第 3 学年・第 4 学年分科会では「時間的な視点」、第 5 学年分科会では「調べた事実の結び付き」、第 6 学年分科会では「共感的な理解」をキーワードに、問題解決的な学習の充実を図り、思考力・判断力・表現力等を高め、学習意欲の持続と向上を目指していく。

¹東京都教育委員会 平成 25 年 4 月「東京都教育ビジョン（第 3 次）」

時間的な視点から社会的事象を追究し、地域社会の特色やよりよい発展を考える児童を育てるための指導の工夫

I 研究主題設定の理由

第3学年及び第4学年の社会科の学習では、自分たちの住んでいる地域の学習を通して、社会生活についての理解を図り、地域社会の一員としての自覚をもち、地域社会に対する誇りと愛情を育てることを目標としている。

研究主題の設定にあたり、第3学年及び第4学年の児童811人を対象に以下のアンケート調査を行ったところ、地域社会に対するアンケート項目の全てに対して肯定的な回答が得られた。一方、約18%の児童が「自分の住んでいる地域のために何かしたいと思う」に否定的な回答をするなど、「地域社会のために何をしたいかよく分からない」という児童も少なくない。これは、児童が「自分は地域社会の一員であり、地域の社会的事象とつながりがある」ということを理解できていない状況であると考えられる。

本分科会ではこの分析を受け、「問題解決的な学習の一層の充実」を目指した。また、その中で、自分と地域の社会的事象にはつながりがあるということを経験させるために、地域の様子の変化と、人々の生活の移り変わりを考えさせる「時間的な視点からの社会的事象の追究」を行った。

<アンケート項目 及び 肯定的回答の割合>

① 自分の住んでいる地域のことをよく知っている。	79.7%
② 自分の住んでいる地域はよいところだと思う。	91.4%
③ 自分の住んでいる地域をもっとよく知りたい。	82.9%
④ 自分の住んでいる地域をもっとよくしていきたい。	89.8%
⑤ 自分の住んでいる地域はこれからよくなっていくと思う。	83.5%
⑥ 自分の住んでいる地域のために何かしたい。	82.3%

「問題解決的な学習の一層の充実」は、児童の学習意欲の維持を目指したものである。児童自身が追究すべき対象や方法を把握し、解決の手立てをもっている時に学習への意欲は維持され、解決への道筋がより確かになる。また、学習問題の解決に向けて見通しをもち、振り返りを行うことで、よりよい追究活動を行うことができる。

「時間的な視点からの社会的事象の追究」とは、学習問題を見いだす場面で地域の様子の変化から問いをもつことや、学習を通して自らの問いを解決していくことを指す。地域の社会的事象が、時間的に変化しながら続けられてきた事実を捉え、そのことから地域社会の維持・発展について考えられるようにすることを目指している。

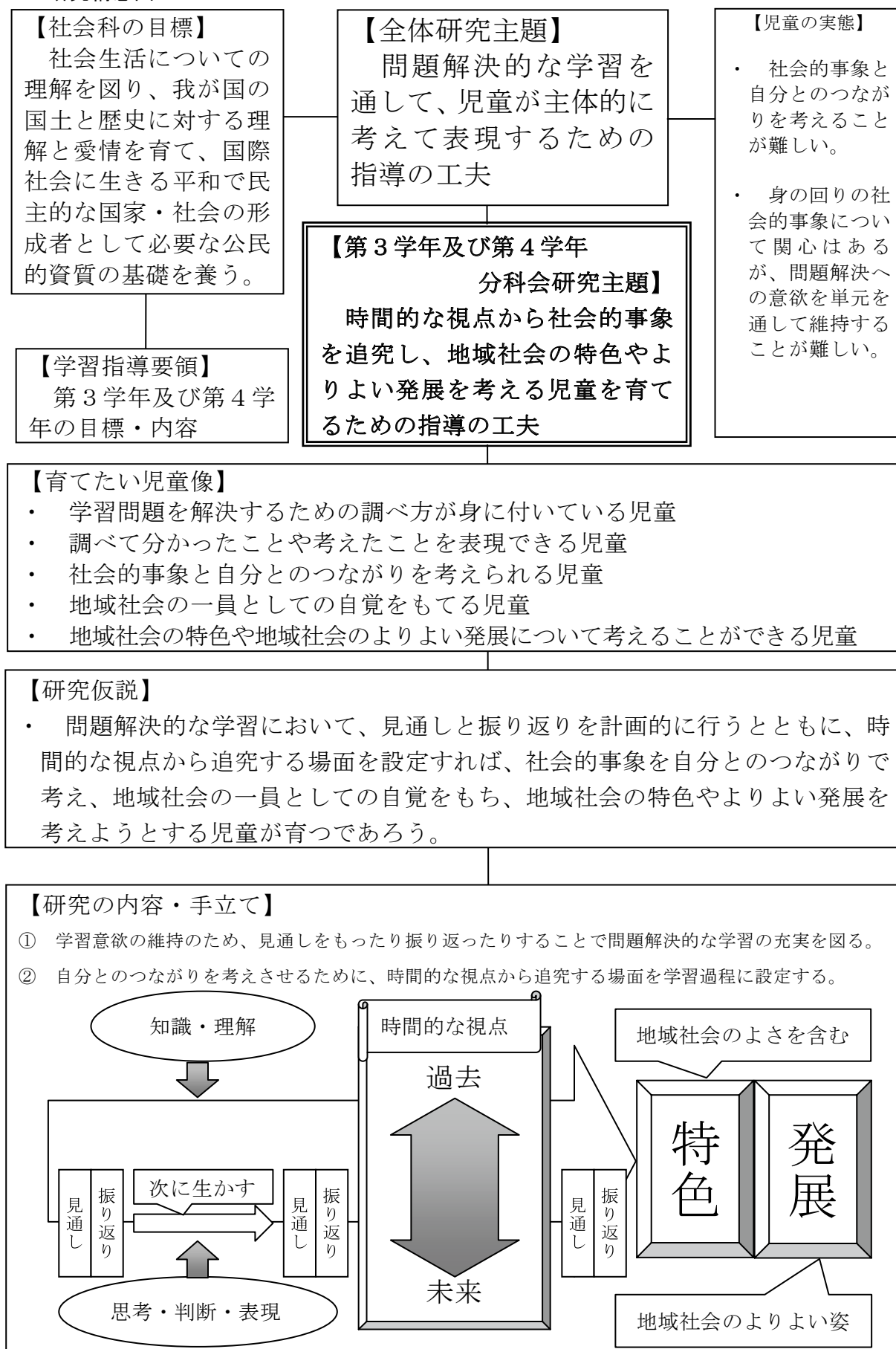
学習問題の解決までの見通しをもって、時間の経過に伴う地域社会の様子の変化から、過去から受け継がれてきた地域社会の中で自分が過ごしていること、自分も地域社会の一員であることを捉えさせたい。そのことを通して主体的に地域社会について考え、表現できるようになると考える。

以上から、研究主題を「時間的な視点から社会的事象を追究し、地域社会の特色やよりよい発展を考える児童を育てるための指導の工夫」と設定した。

II 研究の仮説

問題解決的な学習において、見通しと振り返りを計画的に行うとともに、時間的な視点から追究する場面を設定すれば、社会的事象を自分とのつながりで考え、地域社会の一員としての自覚をもち、地域社会の特色やよりよい発展を考えようとする児童が育つであろう。

Ⅲ 研究構想図

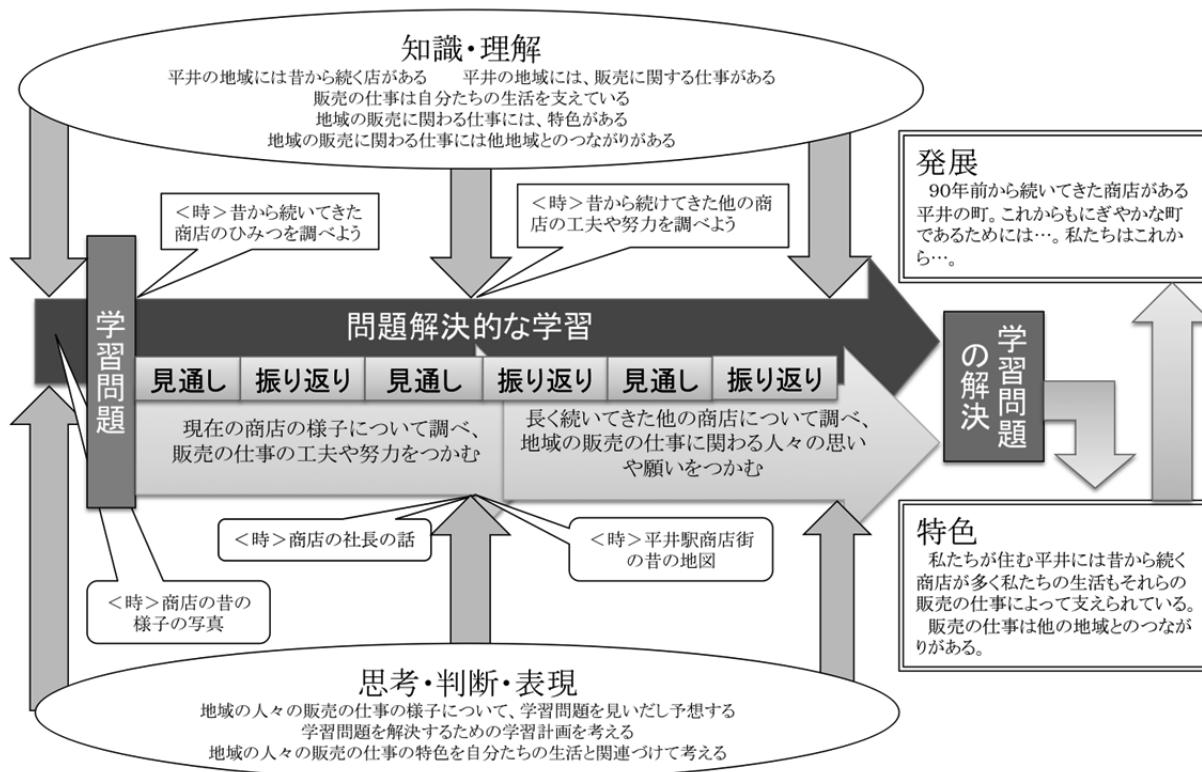


IV 研究の内容

1 問題解決的な学習の一層の充実

「問題解決的な学習の一層の充実」とは、学習問題を見いだしたり、解決したりする活動の中で、予想・根拠・解決の方法などの「見通し」をもったり、それらが正しかったかを確認する「振り返り」の時間を確保したりすることを指す。それによって自分の考えの根拠が明確になり、問題解決的な学習の質が高まると考える。

研究との関連(例)



2 時間的な視点から社会的事象を追究する

「時間的な視点から社会的事象を追究する」ためには、教師が時間的な視点を意識して教材開発をするとともに、社会的事象の変化や推移についての児童の捉え方という両面から授業改善していくことが必要である。

(1) 時間的な視点からの教材開発

地域にある社会的事象について、時間的な視点から教材開発を行い、地域社会の様子を過去から現在にかけての変化で見たり、これからの地域社会のよりよい発展について考えたりすることができるようにする。

(2) 時間的な視点から地域の特色を理解し、よりよい地域の在り方を考えるための指導の工夫

児童に「社会的事象の時間的な変化に基づいた問い」をもたせるため、地域社会の過去から現在にかけての変化が見える資料を用意し、児童の思考の流れを意識して提示することで、時間的な視点から追究することができるようにする。また、その問いを追究することで地域の特色を理解し、よりよい地域社会の在り方を考えられるようにする。

V 実践事例 「わたしたちのくらしと商店」【第3学年及び第4学年内容(2)ア、イ】

1 小単元の目標

買い物調べや商店の見学を通して、よりよい生活を求める消費者の思いや願いを捉え、地域の販売に関わる人々の様々な工夫や努力によって生活が支えられていることを理解する。

2 実践(全14時間)

	ねらい	○主な学習活動	●研究の内容との関連 ・児童の反応 【資料】
つかむ(4時間)	① 地域の店や身近な人々の買い物に関心をもつ。	○ 日頃の買い物体験を振り返り、家の人はどこでどんなものを買うのかを発表し、なぜそこで買うのか予想する。	【買い物調べのワークシート】 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><見通し>安くて近いからその店に行っていると思う。家の人に聞いて確かめたい。</p> <p><振り返り>安くて近いからという理由だと思ったけれど、いろいろ品物があることも理由だった。家によっては、うちとは違う理由で店を選ぶのかな。</p> </div>
	② 消費者の立場により、多様なニーズがあることを知る。	○ よく行くお店と、そのお店に行く理由をまとめる。	
	③ 昔と今の商店の写真を見比べて気付いたことを話し合い、学習計画を立てる。	○ 創業90年の商店の写真をもつと話し合い、学習問題を見いだす。 	● 時間的な視点から社会的事象を追究する場面の設定 【創業90年の商店の写真】 【大正13年創業当時の写真】 【現在の写真】 時間的な視点による資料① <ul style="list-style-type: none"> ・ 古い写真だな。いつ頃かな。 ・ お店の名前が書いてある。 ・ どうやって90年もお店を続けてきたのだろう。
	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>創業90年の商店の写真(時間的な視点による資料①)を提示したことで、「どうやって90年も続けてきたのか」という問いが生まれ、そこから学習問題が見いだされた。</p> <p>また、それにより、意欲的に学習問題に対する予想を立て、見通しをもって学習に取り組めた。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>学習問題 昔から続けてきた商店のひみつをさぐろう</p> </div>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><見通し>90年以上続いているとは思わなかった。ぼくは新鮮でおいしくて人気があったから続けているのではないかと思う。見学に行って疑問を解決したい。</p> </div>
④ 販売店へのお店の人の願い(消費者のニーズ)について知り、見学の計画を立てる。	○ 創業90年の商店を利用する理由についての予想と比べ、販売の工夫を調べるための見学の計画を立て、見学メモの準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ どのくらい品物があるのだろう。 ・ 安いものが分かるようにどのような工夫をしているのだろう。 ・ お店の人はレジの仕事の他にどのようなことをしているのだろう。 	
		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><見通し>品物がいくつあるかを調べるために、数えようと思ったけれど、きっと大変だからお店の人に聞いたら聞きたい。多分50種類くらいあると思う。きっと、いろいろな人に親しまれていると思う。どんなものをみんな買うのか、インタビューをして調べたい。</p> </div>	

調べる（8時間）

<p>⑤ 計画をもとに見学し、工夫や努力を調べる。</p>	<p>○ 創業90年の商店に行き、店の様子を見学し、見学メモにそって、分かったことや聞いたことを記録する。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><振り返り>古くて小さいけれど、予想した以上にいっぱいお客さんがいた。おすすめの商品の紙がいっぱいはってあって、びっくりした。お店の奥ではどんなことをしているのか知りたい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ お客にできたてを食べてほしいから、段の上にできたてを置いて、分かりやすくしていた。
<p>⑥⑦ 見学の結果から、販売の工夫や努力をまとめる。</p>	<p>○ 視点ごとにどのような工夫や努力があったか振り返り話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><振り返り>たくさんの方があった。はたらく人はお客さんのために努力していたから、そういうことが昔から続けてきたひみつだと思う。それはきっとこれからも続いていくと思う。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><分析>時間的な視点から、商店を続けてきた理由を考える（社会的事象を追究する）ことで、今も昔も変わらないのはお客さんのために工夫や努力を続けていることだと気付くことができた。また、未来も努力を続けていこうという視点をもつことができた。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 90年の間、工夫や努力を続けてきたのかなと思った。そして、今も工夫や努力をしていると思う。もっともっと進化するのではないかな。 ・ お客さんに見やすいようになど、働く人はお客を大事にしていた。だから、つぶれないで90年も続けられてきたのだと思った。
<p>⑧ 働く人々の工夫や努力を理解する。</p> <p>⑨ 売られている商品は、他地域や海外からも送られてきていることを理解する。</p>	<p>○ ビデオで社長からの話を聞き、見えない工夫や努力について話し合う。</p> <p>○ 産地を調べる手掛かりを見付け、他地域とのつながりを理解する。</p>	<p>【社長の話（ビデオ）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 朝4時から家を出て市場に行き、7時半から作業をしてくれていることが分かった。そこまでして私たちの食べ物を作ってくれてすごいと思った。
<p>⑩ 昔から続く個人商店に関心をもち、続けてきた理由を予想する。</p>	<p>○ 資料②の2枚の地図を比較し、それをもとに、商店街にある昔から続く他の商店について話し合う。</p> <p>○ 昔から続けてきた他の商店の工夫や努力を予想する。</p>	<p>● 時間的な視点から社会的事象を追究する場面の設定</p> <p>【平井駅前商店街の65年前と今の地図】</p> <p>時間的な視点による資料②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今はないお店がたくさんある。 ・ どうしてこのように長い間続いている店があるのかな。 ・ いろいろなお店があるけれどそれぞれの工夫や努力があったから続けてきたのだと思う。どのような工夫や努力が調べたい。 ・ 昔から続いている商店と同じで、茶屋にはきつとこだわりがいっぱいあると思う。特に産地には気を付けていると思う。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><分析>時間的な視点による資料②を提示することで、児童たちの中から新たな疑問が生まれた。また、これまでの学習の中で<見直し>と<振り返り>を繰り返し行ってきたことで、既習事項を根拠として考えを明確にし、疑問に対する予想を立てることができた。</p> </div>		

	<p>⑪ 他の商店について調べたいことや質問したいことを考え、見学の計画を立てる。</p>	<p>○ 調べたい商店の見学の計画を立てる。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><見通し>90年続いている商店では仕入れる産地にこだわっていたので、今度見学するお茶屋でも同じようにしていると思う。お茶屋の人に質問をして調べたい。</p>	<p>・ 他の商店が何年前からやっていて、どんな工夫や努力をしてきたのか、早く知りたい。</p>
	<p>⑫ 個人商店の工夫や努力をインタビューや見学をして調べる。</p>	<p>○ 見学計画に基づき、他の商店へ見学し、インタビューをする。</p> <p>・ 酒屋・靴屋・洋品店・和菓子屋・お茶屋へのインタビュー（お店の種類に幅をもたせ、販売の仕事全般として捉えるようにする。）</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><振り返り>やっぱり他の商店も産地にはこだわっていた。茶屋にはお茶だけ売っていると思っていたけれど、のりやコーヒーも売っていたのが分かった。コーヒーは目につきやすいから入り口においていると思う。</p>	<p>・ 自分が調べた商店は100年もやっている。たった4人だけでお店をやっていると言っていた。</p> <p>・ 思ったよりもいろいろなものを売っていた。商品の種類が350種類もあって、驚いた。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめる（2時間）</p>	<p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><見通し>お店は全部工夫や努力をしていて、みんなによるこんでもらうためにやっているのではないか。売っている物、お客に喜んでもらうためのそれぞれのお店の工夫や努力を書いて、並べてまとめると分かりやすいと思う。</p> <p>⑬ 見学で分かったことを基に他の商店の工夫や努力をまとめる。</p>	<p>○ グループごとに見学メモや写真を基に、工夫や努力について分かったことを話し合い、まとめる。</p> <p>○ グループごとにまとめたことを発表する。</p>	<p>【現在の個人商店の外観の写真】</p> <p>【現在の店で働く人の写真】</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><振り返り>どの店も少しずつ違っているけれど、工夫をしてお客に喜んでもらっていると考えた。売っているものは違うけれど、お客への思い、対応はどの店も同じだと思った。</p>
	<p>⑭ 昔から地域にある商店の特色を知り、販売の仕事と自分たちの生活との関わりを考えようとする。</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><振り返り> 平井の地域にあるどのお店も、お客のために工夫や努力をしているのが分かった。お客のためにこれからも工夫や努力をしてくれたらいいなと思った。私も応援したい。いつかは商品を買いにいきたい。私たちのための工夫をしていることが分かって、すごく私たちお客を大事にしてくれていると思った。</p>	<p>○ 創業90年の商店の社長の手紙から分かったことをまとめ、工夫や努力をしている理由を確かめる。</p> <p>○ 学習を通し、学んだことや考えたことを商店への手紙に表し、発表する。</p>	<p>● 時間的な視点から社会的現象を追究する場面の設定 【創業90年の商店の社長からの手紙】 変化と継続に気付かせることのできる資料</p> <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"><分析>時間的な視点から単元を追究してきたことで、「私たちお客」など自分の生活と関連付けて考える姿が見られるようになった。 また、第14時では昔から続けている商店の変わってきた部分（変化）と変わらない部分（継続）に気付かせる発問を行ったことで、店で働く人々の思いや願いに寄り添って考えることができ、「これからも続けてほしい」「自分も商品を買いたい」という今後の地域の発展を考えていく上での足掛かりとなる考えが見られた。</p>

VI 研究の成果

1 問題解決的な学習の充実に向けた学習過程の工夫

実践事例において、つかむ段階で見いだした「昔から続けてきた商店のひみつをさぐろう」という学習問題に対して、見通し（予想・根拠・解決の方法）をもって追究した。児童は買い物調べのインタビューで分かったことを基にして「新鮮で、美味しくて人気があるから続けてきたのでは」と考えていた。また、見通しで自分が予想したことが正しかったかどうかを振り返る姿が見られた。以上より、学習過程の工夫を行ったことは、社会的事象について事実を根拠にして理解し、販売の仕事の特色をまとめる上で有効であったと考える。

2 時間的な視点からの社会的事象の追究

(1) 時間的な視点からの教材開発

地域にある社会的事象の過去から現在にかけての変化をつかみ、これからの地域社会について考えることができるよう意識して教材開発を行った。従来であれば現在の様子を中心に追究してきた社会的事象においても「時間的な視点からの社会的事象の追究」を行ったことで、昔から続いてきた理由、商店が続けてきたことや変えてきたことなどについて児童は問いをもち続けていた。児童の「このように長い間、お店が続いているとは思わなかった。見学に行つて調べたい。」という記述からも、児童が主体的に学習している様子を見ることができた。

(2) 時間的な視点から地域の特色を理解し、よりよい地域の在り方を考えるための指導の工夫

過去から現在の社会的事象の変化を根拠にして地域社会のこれからのことを考える学習活動を行うことで、「これからも工夫や努力をしてくれたらいいなと思った。私も応援したい。」「いつかは商品を買いにいきたい。私たちのための工夫をしていることが分かって、すごく私たちお客を大事にしてくれていると思った。」というように、地域社会を時間的な視点から捉え、自分もその一員であることや、地域社会のよりよい発展について考えようとする姿が見られた。また、「時間的な視点からの社会的事象の追究」を行った第3学年及び第4学年の児童289人を対象とする事後アンケート（平成26年12月実施）の結果、「自分の住んでいる地域のために何かしたい」という項目で7.3ポイントの伸びが見られた。ここからも、児童が「地域社会の特色を理解し、地域のよりよい発展について考えようとしている」様子が見られると捉えた。

VII 研究の課題

- 時間的な視点で社会的事象を追究していく際、現在の地域の様子について調べているのか、過去の地域の様子について調べているのか児童にとって判断しづらく、混同してしまう場面があった。
- 「昔」という言葉に対する児童の捉え方には違いがあるため、例えば「祖父母が子供の頃」「保護者が子供の頃」など、時間軸を明確にした提示の仕方について検討が必要である。
- 昔と今の地域の様子の「変化」という視点で「昔から続いているもの」に焦点化して追究したため、「生活の様子の変化に伴って地域の販売の仕事の様子も変化してきている」ということを捉えさせることが難しかった。時間的な視点からの社会的事象の追究においてどのような教材提示が有効か、今後更に検討が必要である。

調べた事実を結び付けて社会的事象の意味を考え、自分の言葉で適切に表現することを通して、国土や産業に関心を持ち続ける児童を育てるための指導の工夫

I 研究主題設定の理由

平成26年7月に実施された「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の結果によると、資料から読み取った個々の情報を関連付けて解釈する力や、社会的事象の意味について考える力に関する項目の正答率が他の項目に比べて低いという実態が分かった※1。さらに、本分科会が児童のノートや作品について分析した結果、学習問題を見いだし学習計画を立てること、社会的事象の意味を考えること、学習したことを再構成し適切に表現することについても課題があることが分かった。その結果、児童は社会生活への適応や地域社会・国家の発展に貢献しようとする態度を養うまで至っていない※2と考える。これらの結果を受け、第5学年分科会では、問題解決的な学習を通して、児童が「主体的に考えて表現する」に当たり、学習に取り組む際の能力面に課題があると考えた。

そこで本分科会では、全体研究主題にある「主体的」を、「自分からしようとする態度」と「自分でできる能力」という二つの側面から捉え、「主体的に考えて表現する」児童を育てるために、意欲的に問題解決に取り組むという態度面と、自分自身の力で問題解決的な学習を行う能力面から研究を進めていくことにした。

能力面については、児童の実態を踏まえ、①個々の資料から読み取った情報を比較・関連付けて社会的事象の意味を考える能力、②考えたことを総合・再構成して適切に表現する能力に課題があると捉え、これら二つの能力を育てるための手立てを講じることにした。これらの能力が児童に身に付くことは、社会的事象の意味を考え、確かに理解させることにつながると考えている。

また、態度面については、児童にこれら二つの能力を育て、社会的事象の意味を考えさせる学習を積み重ねることが、意欲的に問題解決に取り組む態度、つまり「自分からしようとする態度」を養い、児童が我が国の国土や産業に対する興味関心を持ち続けることにつながると考えている。

以上のことから、第5学年分科会では、研究主題を「調べた事実を結び付けて社会的事象の意味を考え、自分の言葉で適切に表現することを通して、国土や産業に関心を持ち続ける児童を育てるための指導の工夫」として研究を進めることにした。

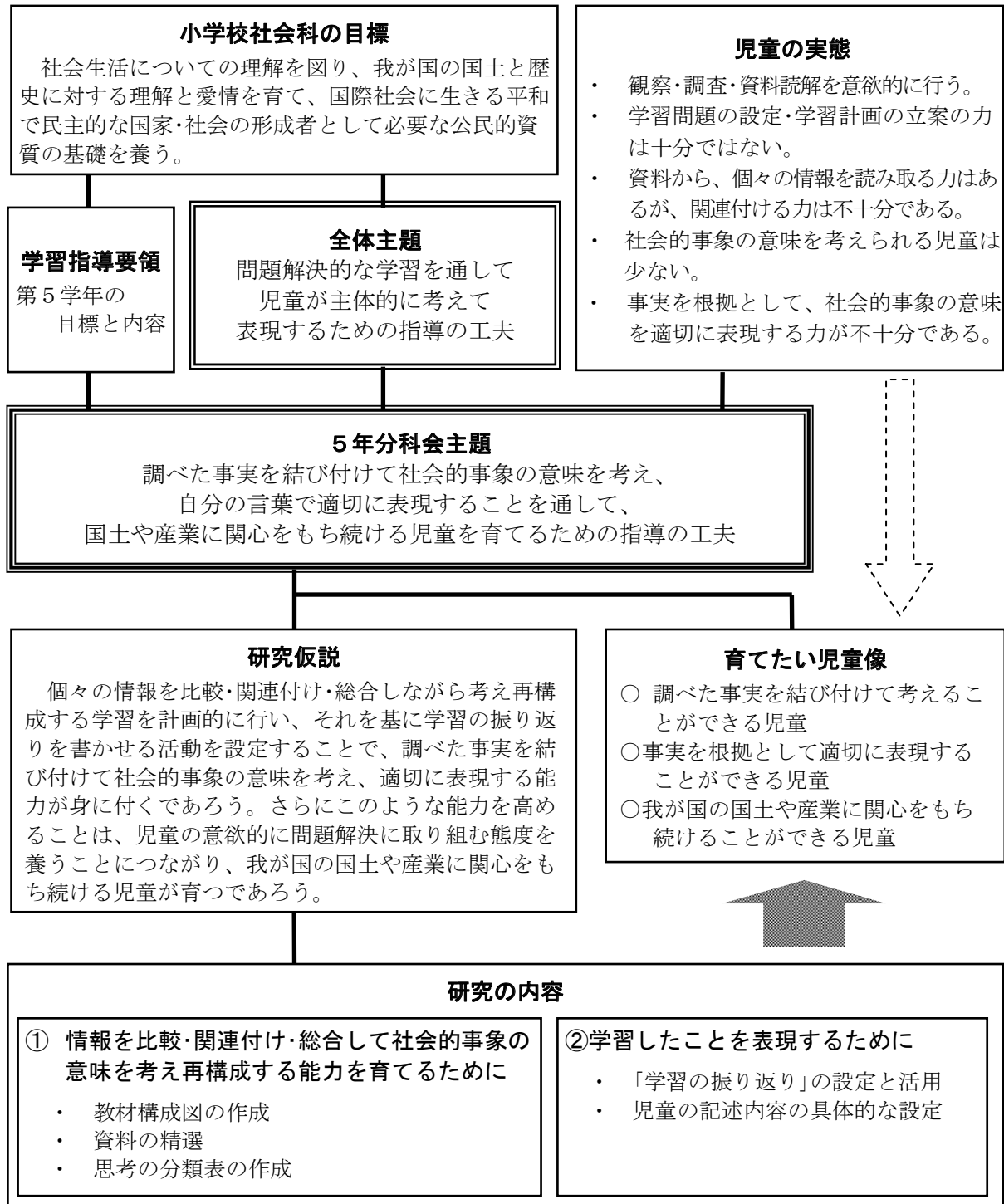
※1 比較・関連付けて読み取る力45.0%、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力50.7%となっている。

※2 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」より、「自分の住む地域をよくしたいと思うか」に肯定的な回答をした児童が91.0%であるのに対し、「たとえ小さなことでも、地域や社会をよくするために何かしたことがあるか」には69.2%と、社会をよくしたいという思いはあっても具体的に何かを考えられない児童が少なくない。また、社会科の授業がよく分かる、どちらかといえば分かるとした児童のうち、「世の中のできごとを知ることが好き」と回答した児童は49.3%と半数を下回る。

II 研究の仮説

個々の情報を比較・関連付け・総合しながら考え再構成する学習を計画的に行い、それを基に学習の振り返りを書かせる活動を設定することで、調べた事実を結び付けて社会的事象の意味を考え、適切に表現する能力が身に付くであろう。さらにこのような能力を高めることは、児童の意欲的に問題解決に取り組む態度を養うことにつながり、我が国の国土や産業に関心を持ち続ける児童が育つであろう。

III 研究構想図



IV 研究の内容

1 情報を比較・関連付け・総合して社会的事象の意味を考え再構成する能力を育てるために

(1) 教材構成図の作成による児童の思考内容の明確化

- ・ 以下の手順で教材構成図を作成し、「何のために」「どの資料を」「どのように使って」考えるのかを明確にする。
- ① 単元のねらいを明確にし、それに基づいて単元の指導計画を作成する。
- ② 毎時のねらいに照らして、期待する「学習の振り返り」を児童の言葉で設定する。
- ③ 毎時の学習課題を設定する。
- ④ 課題を解決するための思考の根拠となる資料を精選し、提示する順序を決める。
- ⑤ 各資料を順に結び、結ぶ際の思考方法と児童の思考内容を記述する。
- ・ 教材構成図により明確化した教材・資料や児童の思考を指導計画に位置付ける。それを基に、授業における発問や指示を精選し、板書計画を作成する。

(2) 思考方法の整理

- ・ 比較、関連付け、総合、そして再構成の思考方法と具体的な思考内容を下表のように整理し、各単元や毎時の学習の中に位置付けて、学習の中で具体的に指導する。

	具体的な思考内容	発問例	思考場面の例
比較	☆ 複数の情報を「比べる」思考方法 ・ 主に、資料から読み取った「情報」同士を比べ、一方又は双方の特徴を見いだす。	「どのような違いがあるのか」 「どのような共通点があるのか」 「どこを比べれば分かるか」	単元：つかむ 調べる 毎時：展開前半
関連付け	☆ 複数の情報を「つなげる」思考方法 ・ 主に、資料から読み取った「情報」を結び付けて解釈し、新たな事実を見いだす。	「どのような関係があるのか」 「なぜ多いのか」 「どのような目的があるのか」	単元：つかむ 調べる 毎時：展開後半
総合	☆ 複数の情報を「まとめる」思考方法 ・ 「比較」や「関連付け」をした事実や解釈をまとめ、抽象化、概念化して学習課題や学習問題に対する考えを見いだす。	「つまりどのような工夫と言えるか」 「三つをまとめると何が分かるか」	単元：まとめる 毎時：まとめ
再構成	☆ 学習したことを「組み直す」思考方法 ・ 学習したことに自分自身の価値判断を加え、意図や目的に正対するように適切に表現する。	「AであるのにBなのはなぜか」 「本当に自分たちにとってよいものなのか」 「これからはどうすればよいのか」	単元：まとめる ふかめる

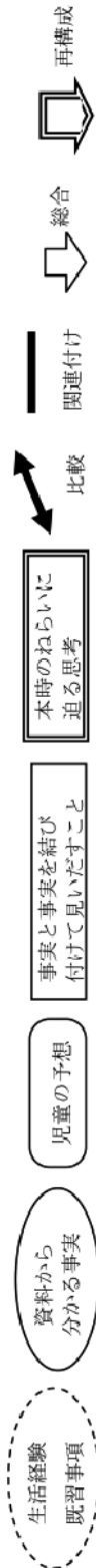
参考文献：初等教育資料No.914(平成26年6月号)澤井陽介氏「社会科における考える力を育てる指導」

2 学習したことを適切に表現するために

(1) 「学習の振り返り」を書く活動の設定

- ・ 「学習の振り返り」として、各時間に分かった事実を総合してまとめ、それに対する自分の考えを書く活動を毎時間設定し、学習内容を整理し確かな理解ができるようにする。
- ・ 単元終了時及び各時間の終わりに児童に表現させたい(理解させたい)内容は、教材構成図作成の際に明確にし、指導計画に位置付ける。
- ・ 毎時の学習課題を明示し、「学習の振り返り」は課題に正対して書けるようにする。
- ・ 各時間の始めに、前時やそれまでの「学習の振り返り」を活用し、児童が単元全体の学習を見通したり学習内容のつながりを意識したりできるようにする。

【教材構成図】



第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時
<p>学習課題 私たちの食料生産は、どのようになっているのだろうか。</p> <p>①食料に困っていない ②生産者の協力 ③支えられている ④天候不順 ⑤困ることもある ⑥外国から輸入している ⑦外国に頼っている ⑧食料危機の回避</p>	<p>学習課題 学習問題を見だし、学習計画を立てよう。</p> <p>①第1時 ②学習問題 食料を安定して確保し続けるには、どうしたらいいだろうか。</p> <p>③品種改良 ④就業人口減 ⑤予想 ・就業人口を減らさない ・生産安定、生産確保 ・輸入 ・輸入状況の様子 ⑥計画</p>	<p>学習課題 主な食料の輸入先や自給率はどうか。</p> <p>①自給率の現状(主な食料) ②ネタのない寿司 ③世界各国から輸入 ④第1時 ⑤外国からのおおかげで食べられる</p>	<p>学習課題 安定して生産をするために、どのような取り組みをしているのだろうか。</p> <p>①植物工場の野菜栽培 ②技術向上 ③天候に左右されない ④天候不順で野菜高騰 ⑤品種改良 ⑥完全養殖 ⑦新しい技術</p>	<p>学習課題 生産したものがより多く消費されるために、どのような取り組みをしているのだろうか。</p> <p>①地元での販売 ②地産地消 ③販路拡大 ④第3時 ⑤生産者の努力</p>	<p>学習課題 これまでの学習を基に、学習問題に対する自分の考えをまとめよう。</p> <p>①第3時 ②第4時 ③第5時 ④学習問題に対する自分の考え</p>
<p>学習の振り返り 日本の食料生産は、国内で生産されたものだけでなく、外国から輸入されたものによって成り立っている。しかし、食料は天候の影響を受け、不足することがある。だから、食料を安定して確保する必要がある。</p>	<p>学習の振り返り 私は、日本国内の生産者を増やしていくことが大切だと思う。なぜなら、農業や漁業では後継者不足に悩んでいることを学習して、生産者が増えればこれからは安定して生産を続けられると思ったから。</p>	<p>学習の振り返り 日本の食料自給率は低く、輸入に頼っている。外国からの輸入のおかげで食べられる。つまり外国との繋がりによって、食料を確保することができている。</p>	<p>学習の振り返り 食料を安定して確保するために、今までの生産方法だけでなく、工場での生産、完全養殖などの新しい取り組みもしている。</p>	<p>学習の振り返り 生産者は、地産地消や輸出拡大などの取り組みを行っている。品質の良いものをたくさんの人に食べてもらうための努力もしている。</p>	<p>学習の振り返り 食料を安定させるためには、生産者の取り組みも大切だが、外国から輸入しているものが多いから、他の国と仲よくすることが大切。また人工的に育てたり、外国に売ったりすることでも、生産量も増えるから安定する。</p>

V 実践事例

「これからの食料生産」【第5学年内容（2）ア】

1 小単元の目標

- ・ 主な食料の自給率や輸入先、食料生産の新たな取組などを調べ、様々な食料生産が国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることが分かり、国民生活を支える我が国の食料の確保の在り方について考えることができる。
- ・ 地図や統計などの資料を活用して我が国の食料生産の様子について調べ、調べて分かった事実と事実を結び付けて社会的事象の意味を考え、適切に表現することができる。

2 実践（全6時間）

	ねらい	○主な学習活動 ☆抽出児の記述	●研究の内容との関連 ・児童の反応 【資料】
つかむ (2時間)	① 私たちの食料生産の現状を知り、関心をもつ。	<p>学習課題「私たちの食料生産は、どのようになっているのだろうか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本食の材料の輸入先の資料を見て、日本食の材料が、世界中から輸入されていることを知る。 ○ 1993年の米不足の資料を見て、安定供給されないことがあることを知る。 ○ 資料を関連付けて、「日本の食糧を安定して確保するにはどうすればいいか」について事実を基に意見交換する。 ○ 学習の振り返りを書く。 <p>☆ いつも食べているお米は、寒さに弱く、一時期日本のお米が食べられなくなったことがある。そして輸入していた。いつでも食べられるようにすることが大切である。</p>	<p>● 資料①②③の関連付け 【①日本食の写真】 【②米不足、緊急輸入に関する新聞記事】 【③店に並ぶ輸入米の写真】</p> <p>＜考えさせたいこと＞ 日本の食料生産は、国内で生産されたものだけでなく、外国から輸入されたものによって成り立っている。しかし、食料は、天候の影響を受け、不足することがある。だから、食料を安定して確保する必要がある。</p>
	<p>＜本時の分析＞現在の日本の食料生産は国内生産と輸入によって成り立っており、資料から、過去に食料の安定確保ができずに困った事実があることを捉えることができた。それらの事実を関連付けることで、天候の影響などを受けずに、食料を安定確保することの重要性に気付いた。</p>		
	② 学習問題を見だし、学習問題に対する予想と学習計画を立てる。	<p>学習課題 「食料生産について調べる学習問題をつくり、学習計画を立てよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 日本の食料生産の現状を基に、学習問題を見いだす。 	
	<p>学習問題 食料を安定して確保し続けるためには、どうしたらよいだろうか。</p>		
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習問題に対する予想をし、調べる視点を明確にして学習計画を立てる。 ① 食料の輸入の状況について ② 生産に関する取組について ③ 生産者について 	<p>● 資料④⑤⑥の関連付け 【①②③④前時の資料・記述、⑤⑥既習事項など】</p>

	<p><本時の分析>既習の農業、漁業の学習を基に、根拠を明確にして、食料の安定確保に対する自分の考えを書くことができた。</p>	<p>○ 学習の振り返りを書く。 ☆ 生産者の取組が大切だと思う。理由は、生産者がこれからいろいろな工夫をして生産していき、もっと生産者が増えると、生産される量も増えるから</p>	<p><考えさせたいこと> ・ 問題解決のために、大切だと思うこと ・ 大切だと思う理由</p>
<p>調べる (3時間)</p>	<p>③ 主な食料の自給率(カロリーベース)や輸入先について調べ、輸入によって私たちの食生活が成り立っていることを理解する。</p>	<p>学習課題 「日本の主な食料の自給率と、輸入先はどのようになっているのだろうか。」</p> <p>○ 主な食料の自給率を調べ、自給率が低いことを知る。 ○ 日本食の写真を見て、私たちの食生活は、国産の食料と外国からの輸入によって成り立っていることを知る。 ○ 主な食料の輸入先を調べ、世界中の国から輸入されていることを知る。 ○ 資料を関連付けて、「日本の食糧を輸入すること」について事実を基に意見交換する。 ○ 学習の振り返りを書く。 ☆ 日本はいろいろな国から食料を輸入している。米や野菜は日本の自給率が高いことも分かった。これから食べていくには、輸入することも大切だし、他の国と仲良くすることが大切だと思った。</p>	<p>● 資料⑦⑧⑨の関連付け 【⑦主な食料の自給率】 【⑧日本食の写真】 【⑨主な食料の輸入先】</p> <p><考えさせたいこと> 日本の食料自給率は低く、輸入に頼っている。外国からの輸入のおかげで、多くの種類のものを食べることができる。つまり、外国とのつながりによって、食料を確保することができている。</p> <p><本時の分析>資料から、日本の主な食料の自給率や輸入先を捉えることができた。そして事実を結び付けて、これからの食料確保のためには、外国との関係が重要であると理解することができた。</p>
	<p>④ 新しい技術を生かした植物工場の取組について調べ、食料の安定確保のために研究開発が進められていることが分かる。</p>	<p>学習課題 「安定して生産をするために、どのような取組をしているのだろうか。」</p> <p>○ 植物工場の写真を見て、気が付いたことを発表する。 ○ 資料を見て、植物工場野菜を作ることの良い点を知る。 ○ 植物工場の野菜生産と、既習のクロマグロの完全養殖とを結び付けて考える。</p>	<p>● 資料⑩⑪⑫の関連付け 【⑩植物工場生産された野菜】 【⑪工場の写真】 【⑫植物工場の人話】</p> <p><考えさせたいこと> 天候に左右されずに安定して生産をするための一つの方法として、植物工場野菜を生産している。</p> <p>● 資料⑩⑫と⑬の比較 【⑬クロマグロの完全養殖】</p> <p><考えさせたいこと> 食料を安定確保するために、今までの生産方法だけでなく、工場での生産、完全養殖などの新しい取組もしている。</p>

		<p>○ 学習の振り返りを書く。</p> <p>☆ 野菜の中には、工場で人工的に作っているものもある。そして、農薬を使わずに短期間で野菜を作ることができる。だから、生産量が減らずに、一年中安定して生産できる。</p>	<p>＜本時の分析＞安定して生産するために、植物工場野菜作りが行われていることを理解できた。しかし、クロマグロの完全養殖との共通点から新しい取組という視点をもたせることができなかった。その要因として、クロマグロについて学習してから時間がたったこと、新しい取組という視点が難しかったことが考えられる。</p>
<p>調べる (3時間)</p>	<p>⑤ 地産地消の取組や、国内の農産物の輸出拡大の取組について調べ、日本の農業や水産業の維持や発展が重要であることが分かる。</p>	<p>学習課題 「生産したものがより多く消費されるために、どのような取組をしているのだろうか。」</p> <p>○ 農産物直売所で野菜が販売されている写真を見て、直売所の様子を知る。</p> <p>○ タイで千葉県産の梨が販売されている資料を読み、タイで日本の梨が販売されている理由を知る。</p> <p>○ 地産地消の取組と、梨の輸出の取組から、考えたことを意見交換する。</p> <p>○ 学習の振り返りを書く。</p> <p>☆ 千葉県では、梨をたくさん食べてもらえるように海外で販売をして、梨のおいしさを知ってもらっている。梨を作る人は、多くの人に食べてもらうために努力している。</p>	<p>● 資料 [41516] の関連付け 【直売所の写真】 【千葉県庁報道資料】 【16] 県庁職員の話】</p> <p>＜考えさせたいこと＞ 生産者は、地産地消や輸出拡大などの取組を行い、品質のよいものをたくさんの人に食べてもらうための努力もしている。</p> <p>＜本時の分析＞資料から、梨を輸出して消費量を増やそうとしていることを理解できた。生産者が作るための努力だけでなく、食べてもらうための努力もしていることに気付くことができたが、地産地消と梨の輸出拡大との共通点を意識した記述は見られなかった。事例地の精選が必要である。</p>
<p>まとめる (1時間)</p>	<p>⑥ これまでの学習を基に、学習問題に対する自分の考えをまとめる。</p>	<p>学習課題 「食料を安定して確保し続けるためにどうしたらよいか、自分の考えを書こう。」</p> <p>○ これまでの学習を振り返る。</p> <p>○ 学習問題に対する自分の考えを書き、発表する。</p> <p>☆ 食料を安定させるためには、生産者の取組も大切だけど、外国から輸入している物が多いから、他の国と仲良くすることも大切だと思う。そして人工的に育てたり、多くの人に食べてもらえるように外国に売ったりすることで、生産量も増えるし、他の国との仲がさらによくなるから、これからも生産量が減らずに食料が安定する。</p>	<p>● 資料・学習内容の総合→再構成 ＜これまでの資料や学習内容を基に、学習問題に対する自分の考えを書かせるための手だて＞ 発問 安定して食料を確保し続けるためには、何が大切だろうか。これからはどうすればよいだろうか。</p> <p>＜本時の分析＞これまでの学習から、安定して食料を確保するためには、輸入や国内生産に頼るのみではなく、様々な取組をしていくことが必要だと考えることができた。前時までの学習を再構成して、今後の食料生産に対する自分の考えをまとめることができた。</p>

VI 研究の成果

- 比較・関連付け・総合、そして再構成というそれぞれの思考の分類・整理や教材構成図による学習内容の整理によって、教師は児童の思考の流れを指導計画に明確に設定し、根拠とする資料を精選して指導することができた。その結果、児童は資料から読み取った情報を根拠として社会的事象の意味を考え表現することができた。

実践事例「これからの食料生産」より：資料から情報を読み取り、それらを関連付けて考え、根拠として考えたことや学習の振り返りを記述している。

学習課題 日本のおもな食料自給率と輸入先はどうなっているのだろうか

資料

- ・ 主な食料の自給率
- ・ 主な食料の輸入先

捉えさせたい事実(資料から分かったこと)

- ・ 米の自給率は高い
- ・ 小麦や大豆はほとんどが輸入
- ・ アメリカからの輸入が多い。

児童のノート記述 (抜粋)

事実を基に考えたこと

- ・ 輸入がなくなると、日本に大きな影響があり、今までの暮らし(生活)ができなくなる。
- ・ 外国と仲よく、協力しあう必要がある。

学習の振り返り

日本の自給率は米が高く、合図・小麦が低くなっている。また輸入先は、アメリカなど面積の広い国がほとんど。だから、外国とのつながりを大事にして、仲良くしていくことが大切。

- 児童のノートの記述を分析した結果、ほとんどの児童が、確かな理解によって学習問題に対する考えを表現していた。常に学習問題を意識し、学習課題に正対した振り返りの記述を積み重ねることで、単元のまとめでの学習問題のスムーズな解決につなげることができたと考える。
- 個々の資料から読み取った情報を比較・関連付けて社会的事象の意味を考える能力、考えたことを総合・再構成して適切に表現する能力を育てることで、「食べられなくなることを考えたことがなかったから、今後どうすればよいのかのヒントになった。」「環境をもっとよくして、安全な作物を作っていくようにする。」など、学習後も関心をもち続けようとする様子が見られるようになった。

VII 研究の課題

- 教師が思考の根拠として設定した事実が児童の思考に沿っていなかったり、事実と事実を結び付ける手立てが不十分だったりした時には、社会的事象の意味を十分に考えることができず、学習の振り返りに期待したような記述が見られないことがあった。思考方法だけではなく、根拠となる資料から児童に読み取らせる内容やその際の発問が児童の実態に即しているかを十分に吟味して設定することが大切である。
- 比較・関連付け・総合、そして再構成というそれぞれの思考を単元の学習過程に位置付けて整理することができたが、場合によっては複数の思考を一連の流れで行わなければならないことがあることが明らかになった。例えば、「どうしたらよいだろうか」という学習問題を設定し単元のまとめの過程では、「総合」→「再構成」を児童が一連の流れとして行うこととなり、児童が考える内容が複雑になった。複数の思考を一連の流れとして行うこともできるようになるためには、一部の実践のみではなく年間を通してくり返し指導し、事実と事実を結び付けて社会的事象の意味を考える能力を確実に育成することが重要であると考えられる。

社会的事象に関心をもち続け、社会の一員であることを実感する児童を育てるための指導の工夫

I 研究主題設定の理由

本分科会では、全体主題にある「児童が主体的に考えて表現する」ために必要な手立てを検討するため、まず、日頃の授業記録の分析を行った。すると「縄文時代に生まれなくてよかった」という一面的な判断による記述や、「聖武天皇は大仏を造った」という事実を把握することにとどまった記述が見られた。また、児童への聞き取り調査からは、「児童の関心が調べる段階まで持続しない」、「社会的事象を追究する視点を見いだすことが苦手である」、「調べるときに教科書や資料集を丸写しする」、「社会的事象を一面的に見て判断しやすい」などの実態が明らかになった。

本分科会ではこれらを受け、社会的事象には必ず関わっている人々が存在し、その人々には思いや願い、意図や目的があるということや、学習している社会的事象と自分の生活にはつながりがあるということを実感できていない実態があると考察した。

そこで、本分科会では「主体的に考えて表現」する児童を、「社会的事象に関心をもち続け、社会の一員であることを実感する児童」と位置付け、上記の分科会主題を設定し、分科会主題に迫るためには二つの手立てが有効であると考えた。

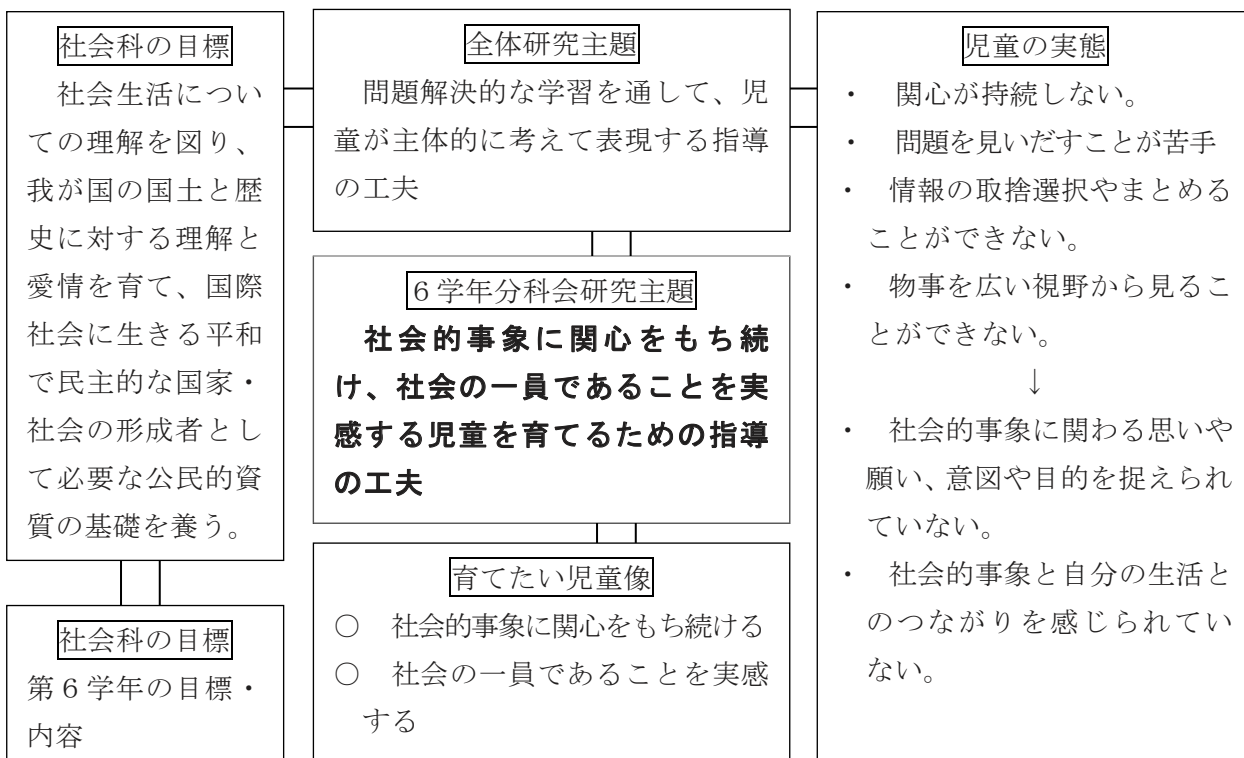
一つは、問題を見いだす段階と調べる段階において社会的事象を共感的に捉える教材開発や資料提示の工夫を行うことである。「社会的事象を共感的に捉える」とは、児童が人物の思いや願いに寄り添ったり、様々な立場に立って考えたりすることで、社会的事象に関わる人々の思いや願い、意図や目的を表現することを指している。このように、児童が社会的事象を共感的に捉えるためには、教材開発や資料提示の工夫を行うことにより、児童の感情を揺さぶることが効果的であると考え、実践を行った。

二つは、まとめる段階において社会的事象を共感的に捉えてきたことを生かす学習活動を設定することである。「社会的事象を共感的に捉えてきたことを生かす」とは、社会的事象の意味をより広い視野から捉え、自分の生活とのつながりを実感することを指している。このように、児童が社会的事象を共感的に捉えてきたことを生かすためには、児童に学習したことを図式化させたり、今までと異なる立場で問い直してみたりすることが効果的であると考え、実践を行った。

II 研究の仮説

- 1 問題を見いだす段階と調べる段階において、児童の感情を揺さぶることができる教材開発や資料提示の工夫を行い、児童が人々の思いや願い、意図や目的を表現する学習活動を設定すれば、児童は社会的事象を共感的に捉え、社会的事象に関心を持ち続けることができるであろう。
- 2 まとめる段階において、学習してきたことを児童に図式化させたり、今までと異なる立場で問い直したりするなど、社会的事象を共感的に捉えてきたことを生かす活動を設定すれば、児童が社会的事象の意味をより広い視野から捉え、自分が社会の一員であることを実感できるであろう。

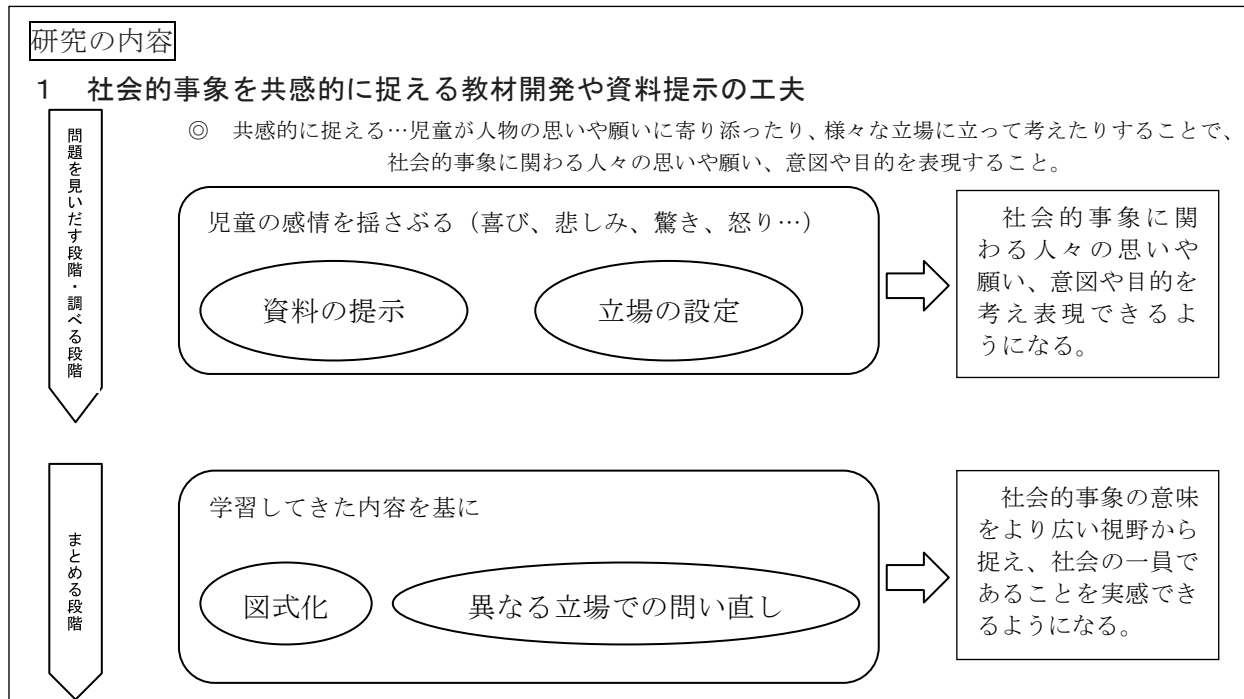
Ⅲ 研究構想図



研究の仮説

1 問題を見いだす段階と調べる段階において、児童の感情を揺さぶることができる教材開発や資料提示の工夫を行い、児童が人々の思いや願い、意図や目的を表現する学習活動を設定すれば、児童は社会的事象を共感的に捉え、社会的事象に関心を持ち続けることができるであろう。

2 まとめる段階において、学習してきたことを児童に図式化させたり、今までと異なる立場で問い直したりするなど、社会的事象を共感的に捉えてきたことを生かす活動を設定すれば、児童が社会的事象の意味をより広い視野から捉え、自分が社会の一員であることを実感できるであろう。



IV 研究の内容

1 社会的事象を共感的に捉えさせる教材開発や資料提示の工夫

本分科会では、社会的事象を共感的に捉えるためには、教材開発や資料提示の工夫により、児童の感情を揺さぶることが効果的であると考えた。児童が感情を揺さぶられることで、過去や現在の人々が抱えている問題を、切実に捉えることができ、それは、社会的事象に関心を持ち、社会的事象をより実感を伴って捉えることができることにつながると考えたからである。

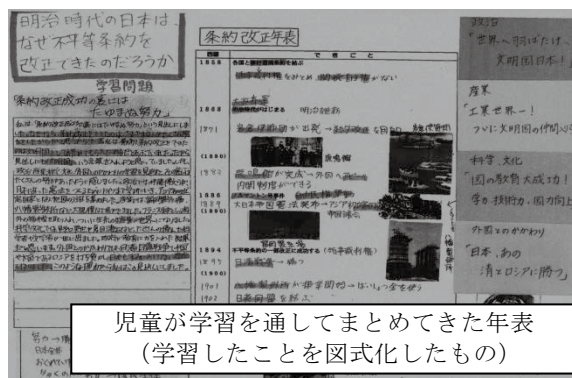
具体的には、人物の様子や人物の気持ちを読み取ることができる資料、世の中の変化に気が付きやすい年表などの資料、人々の思いや願いが表れていて社会の願いの実現を示す資料を提示した。また、感情に訴えやすい立場や対立軸が明確になっている立場を教材として取り上げた。

これらの手立てを、問題を見いだす段階と調べる段階において講じることで、児童の感情を揺さぶることを通して、児童が社会的事象を共感的に捉え、社会的事象に関わる思いや願い、意図や目的を表現することをねらう。

資料の提示の具体例			立場の設定の具体例	
人物の様子や気持ちを読み取れる資料	世の中の変化に気が付きやすい資料	社会の願いの実現を示す資料	感情に訴えやすい立場	対立軸が明確になっている立場
<ul style="list-style-type: none"> 元の使者の手紙 家光の言葉 ノルマントン号事件 戦時中の国民生活 	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉、室町、江戸の等尺年表 幕末と明治初期の日本橋の絵資料 	<ul style="list-style-type: none"> わたしたちの身近な政治に関する資料 海外で活躍する日本人の資料 	<ul style="list-style-type: none"> 厳しく統制されていた江戸の町人 ノルマントン号事件の遺族 	<ul style="list-style-type: none"> 幕府と武士 政治家と国民 日本と外国

2 まとめる段階における社会的事象を共感的に捉えてきたことを生かす学習活動の設定

本分科会では、社会的事象を共感的に捉えてきたことを生かす学習活動を設定することにより、児童の考えを広げることができると考えた。一面的な見方で判断していたことを多面的に見ることで、児童が考えを広げることができる。それは、社会的事象の意味を考え、社会と自分の生活とのつながりを実感することにつながると考えたからである。



具体的には、これまでの学習してきた事実を基にして図式化をしたり、今までと異なる立場で問い直したりする。

「徳川家光と江戸幕府」	1時～4時 徳川家光の政策の受け手の立場 発問「徳川家光の政策をどのように思うか」	5時 徳川家光の立場 発問「今後の江戸幕府はどうなってほしいか」
「江戸の文化と新しい学問」	1時～5時 江戸文化の担い手の立場 発問「何を目指して行ったか」	6時 江戸に住む人々の立場 発問「どのように考えるようになったか」

児童の考えを広げることを通して、児童が社会的事象を共感的に捉えてきたことを生かし、社会的事象の意味を広い視野から捉え、自分の生活とのつながりを実感することをねらう。

第6学年分科会では上記の工夫を行うことで、現代の社会をつくってきた人々の思いや願いに児童が共感し、自分もよりよい社会をつくる一員であると実感することができる考えた。

V 実践事例「世界に歩み出した日本」

1 小単元の目標

日清・日露戦争、条約改正、科学の発展やそれらに関わる人物の働きを理解し、我が国の国力が充実し、国際的地位が向上したことや、それによって人々の生活や社会が変化したことが分かるとともに、それらに関わる人物の願いや働きを考えようとする。

2 共感的に捉えさせることによって期待される主体的な児童を生み出すための活動計画

過程	ねらい	○主な学習活動 ◎研究の内容との関連(共感的に捉えさせる場面や生かす場面)	●研究の内容との関連(共感的に捉えさせる意図や生かす意図) 【資料】 研究の内容
つかむ	<p>① ノルマントン号事件について知り、当時の日本人の立場からの心情を考える。</p> <p>② 条約改正までの交渉の経過や努力について調べ、学習問題を見だし、学習計画を立てる。</p>	<p>◎ ノルマントン号事件の絵を見て話し合い、それぞれの立場や人の思いや考えを吹き出しに書く。 (児童の反応①)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 人物の様子や気持ちを読み取れる資料 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p style="text-align: center;">【ノルマントン号事件の錦絵】 (和歌山市立博物館)</p> </div> <p>○ 不平等条約改正に向けた取組や、尽力した人物の働きを調べる。</p> <p>◎ 条約改正までの年表をもとに、日本の外交交渉について調べる。 (児童の反応②)</p> <p>○ 学習問題について話し合い、予想し学習計画を立てる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> なぜ、日本は不平等条約を改正できたのだろうか。 </div>	<p>● ノルマントン号事件の被害者の思いに寄り添う資料と立場の設定＝社会の課題を何とかしたいという当時の国民の思いに共感させる。</p> <p>● 条約改正に苦心した人々の立場の設定＝明治政府が条約改正にかける強い思いに共感させる。</p> <p>【年表資料 条約改正に向けて】</p>
調べる	<p>③ 大日本帝国憲法の発布と国会開設について調べ、明治政府の目指した政治の在り方について考え、見出しに表現する。</p>	<p>○ 国会が開かれるまでの様子を調べる。</p> <p>◎ 大日本帝国憲法の制定について調べ、明治の日本が目指していたことを吹き出しに書く。(児童の反応③)</p> <p>◎ 憲法制定を世界にアピールできるような見出しを当時の国民の立場で考え、その理由を話し合う。 (児童の反応④)</p>	<p>【年表 憲法ができるまで】</p> <p>● 伊藤博文の立場で考える活動＝日本のあるべき姿を、国を動かす立場から考えさせる。</p> <p>● 当時の国民の立場から憲法制定をアピールする活動＝条約改正という当時の課題に向けて国の仕組みが整ってきたことを考えさせる</p>

	<p>④ 産業の発展や科学者の活躍が、国際社会の中で日本の地位の向上につながったことを理解する。</p> <p>⑤ 日清・日露戦争の経緯と講和条約について調べ、二つの戦争により、日本は世界からどのように見られるようになったのかということについて考え、見出しに表現する。</p>	<p>○ 産業の発展について調べる。</p> <p>○ 科学者の世界的貢献について調べる。</p> <p>◎ 学習したことをもとに、日本の科学や産業が発展したことを世界にアピールできるような見出しを当時の国民の立場で考え、その理由を話し合う。 (児童の反応⑤)</p> <p>○ 日清・日露戦争について、風刺画を見て気付いたことを話し合う</p> <div data-bbox="513 600 1339 815" style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>社会の変化に気づきやすい資料</p> <p>【風刺画 世界の目 漁夫の利】</p> </div> <p>◎ 二つの戦争の様子を調べ、ロシアと日本の戦争中の互いの国の思いや考えを吹き出しに書く。(児童の反応⑥)</p> <p>◎ 二つの戦争の勝利を世界に主張するような見出しを当時の国民の立場で考え、その理由を話し合う。 (児童の反応⑦)</p>	<p>【官営八幡製鉄所写真】</p> <p>【野口英世 年譜】</p> <p>● 当時の国民の立場から日本の科学や産業が発展したことをアピールする活動＝条約改正という当時の課題に向けて産業や科学の発展、教育の向上がなされたことを考えさせる。</p> <p>● 日本とロシアの立場で考える活動＝当時の両国の国民同士の思いを考えさせる。</p> <p>● 当時の国民の立場から強い国になったことをアピールする活動＝条約改正という当時の課題に向けて日本の国力が充実し国際的地位が向上したことを考えさせる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>⑥⑦ 調べたことを年表に表現して、「日本と世界との関わり方」について考える。</p>	<p>○ 条約改正までの道のりについて調べた年表をもとに、学習問題に対する個人の考えをまとめる。</p> <p>◎ 共感的に捉えてきたことを生かして、学習問題についての考えをもち、全体で話し合う。(児童の反応⑧)</p> <p>◎ 共感的に捉えてきたことを生かして、「世界との関わり」について考えるようになったことを意見文に書く。(児童の反応⑨)</p>	<div data-bbox="986 1303 1343 1518" style="border: 1px solid black; text-align: center;"> </div> <p>● 当時の国民の立場で共感的に捉えてきたことを生かし、社会の様子を見出しにまとめる活動＝これまでの見出しを活用して、条約改正という当時の課題に向けた様々な取組についてまとめる。</p> <p>● 当時の国民の立場で共感的に捉えてきたことを生かし、歴史を学ぶ意味を考える活動＝現在の社会を作った人々の思いを踏まえることで自分もよりよい社会をつくる一員であることに気付かせる。</p>

3 児童の反応と考察（児童が表現した文章の要約）

児童の反応	考察
<p>児童の反応①（吹き出し）</p> <p>ノルマントン号事件の被害者の思いに寄り添う資料と立場の設定</p> <p>被害に遭った日本人—何とか助けてほしい、悔しくて仕方ない。なぜ、日本人だけ助けてくれないのだろう。</p> <p>被害に合った家族—亡くなった家族のために、何としても法律で裁いてほしい。そうではないと報われない。</p> <p>助かった外国人船長—日本人は、イギリスより遅れているのだから、僕たちが先に助かって当然だ。条約も結んでいるのだから。</p>	<p>1枚の錦絵から、当時の国民が味わった日本の立場が低いという現実を目の当たりにした。すると、「日本人はどうして助けてもらえないのだろう」「何とか条約を改正したい」といった思いを強くもち、追究意欲につながった。</p>
<p>児童の反応②（年表）</p> <p>条約改正に苦心した人々の立場の設定</p> <p>何度も、何度も条約改正をしようとチャレンジしていたんだ。それでも、あきらめずに交渉し続けたのはとてもすごい。でも、どうしてこんなに失敗ばかりしていたのに、条約改正ができたのだろう。きっと、何かきっかけがあったのではないか。</p>	<p>条約改正に向けて、多くの政府側の立場の人々が苦心しながらも何回もチャレンジしてきたことを示すことで、「なぜ、条約が改正できたのだろう」という問題意識を高めることができた。</p>
<p>児童の反応③（吹き出し）</p> <p>伊藤博文の立場で考える活動</p> <p>私は、ヨーロッパ各国を回り、どのような憲法を作ったらよいのかということ調べました。その結果、ドイツの憲法を参考にするのがよいと考えました。皇帝という立場の人が政治を治めていたため、日本が天皇中心の世の中を目指していることと似ていたからです。日本が少しでも進んだ国になるように願いをこめました。</p>	<p>児童は、吹き出しを活用することによって、当時の日本が目指した国の姿について、伊藤博文になったつもりで考えることができた。さらに、外国から学んで、日本の国を発展させようという思いにも目を向けさせることができた。</p>
<p>児童の反応④（見出し）</p> <p>当時の国民の立場から憲法制定をアピールする活動</p> <p>「世界へ羽ばたけ、近代国家日本！」</p> <p>不平等条約を改正するために、日本は世界に認められたく、アジア初の立憲国家となった。近代国家へまっしぐらだ。ドイツで頑張って憲法を学び、追いつけ、追いこせと、欧米に負けない国を目指した。結果、近代国家として各国の信頼を少しずつ得た。憲法をつくったのはよい選択だ。</p>	<p>当時の国民の立場から憲法制定をアピールするために、見出しを考える活動をした。そうすることで、条約改正に向けて、日本が着実に近代化に向けて努力してきた様子について理解を深めることができた。</p>
<p>児童の反応⑤（見出し）</p> <p>当時の国民の立場から日本の科学や産業が発展したことをアピールする活動</p> <p>「工業世界一！ついに近代国家の仲間入り？」</p> <p>日本は、工場を増やし、流通するお金やものを増やし、とても豊かな国になった。日本は、いつ近代国家に仲間入りしてもおかしくないはずだ。</p> <p>「国の教育大成功！学力・技術力・国力向上」</p> <p>教育の普及が成功し、野口英世のような優れた人物が世に出たことで、国民も意欲的になった。技術力や国力が上がり、教育がみんなを幸せにしたと思う。現在、私は当たり前のように学べて幸せであり、明治政府はよい選択をした。</p>	<p>当時の国民の立場から日本の科学や産業が発展したことをアピールするために、見出しを活用した。そうすることで日本の国力が上がったことを実感した。さらに、国を発展させるためには、教育力を向上させることが国民生活をよりよくするという理解につながった。</p>

<p>児童の反応⑥（吹き出し）</p> <p>日本とロシアの立場で考える活動</p> <p>日本の立場—今はがまんするけれど、いつか必ずロシアにも日本は強いということをつからせてやるぞ。だから、「臥薪嘗胆^{がしんしょうたん}」という気持ちをもとにこれからも日本という国を絶対に強くしていきたい。</p> <p>ロシアの立場—何で、こんな小さい島国が、あの清国に勝つのだ。あなどれない。何とかここで、強さを見せつけておかないといけない。</p>	<p>日清戦争後の日本とロシアの関係について、両国の国民の立場で相手国に対する思いを吹き出しに書かせた。そうすることで、欧米諸国が、日本の国力が上がってきたこと実感していることを捉えることができた。</p>
<p>児童の反応⑦（見出し）</p> <p>当時の国民の立場から強い国になったことをアピールする活動</p> <p>「日本、あの清とロシアに勝つ」</p> <p>日本は清に、後に土地を一部返し、ロシアにはギリギリだったが、日本は「あの」とつけられるくらいの大国に勝ったことは間違えない。正直言ってすごいと思う。なぜなら、これまでは日本に対して見向きもしてくれなかった国に勝利をしたからである。そして、結果的に、日本の国力・地位が向上したことは間違いない。</p>	<p>当時の国民の立場から強い国になったことをアピールするために見出しを活用した。児童の反応にある、「あの」という日本の地位が低かったことを反転させるようなきっかけが戦争の勝利であるということについて理解を深めることができた。</p>
<p>児童の反応⑧（年表・見出し）</p> <p>当時の国民の立場で共感的に捉えてきたことを生かし、社会の様子を見出しにまとめる活動</p> <p>「条約改正成功の裏にはたゆまぬ努力」</p> <p>条約改正ができたのは、様々な人が努力したからだ。私は、最初、条約を改正できたのは近代国家として認められたからだと考えていた。しかし、調べた4つの視点を見直すと、その裏にはたくさんの努力があったと思う。政治では、伊藤博文が憲法を作るためにドイツまで学びに行き、他国の注目を集めた。産業では、フランスに学び生糸の生産量が日本一になった。科学・文化ではたくさんの科学者や文学者が世に出た。政府が教育に力を入れたからだと思う。外国との関わりでは、二つの戦争に勝ち、日本もすみに置けない存在となったからこそ、この見出しを考えた。</p>	<p>当時の国民の立場で共感的に捉えてきたことを生かし、社会の様子を見出しにまとめる活動をした。そうすることで、これまで調べてきた見出しを活用して、条約改正という当時の課題に向けて、当時の日本の国民が常に努力してきたという姿に気付くことができた。さらに、欧米諸国と対等の関係にまでなったことについても理解を深めることができた。</p>
<p>児童の反応⑨（意見文）</p> <p>当時の国民の立場で捉えてきたことを生かし、歴史を学ぶ意味を考える活動</p> <p>「努力とねばり強さ」</p> <p>私は、外国とかかわっていく機会が多くなっていくであろう今の世の中では、努力やねばり強さが大切だと今までの学習を通して、感じた。なぜなら、国民や政府の人間が半世紀もの間努力を重ねてきたことを学び、その大切さが分かったからだ。今は、日本は領土問題、米軍の基地の問題など、はっきり言うと、問題ずくめだ。しかし、小村寿太郎や陸奥宗光のような粘り強さや努力をする力があれば、問題は解決し、さらに日本は発展すると思う。これまでの歴史で、どの時代の人々も自分の国をよくするためにいろいろと取り組んできたということを学んだ。だからそれを大切にしたい。</p>	<p>当時の国民の立場で共感的に捉えてきたことを生かし、歴史を学ぶ意味を考える活動を取り入れた。そうすることで、過去のことだけにとらわれず、現在の諸問題も、これまで学んできた歴史の学習で得た「粘り強く対応すること」「努力すること」によって解決につながると思った、自分も社会の一員であることに気付くことができた。</p>

VI 研究の成果

○ 社会的事象を共感的に捉える教材開発や資料提示の工夫

共感的に捉えさせる教材開発や資料提示の工夫をしたことで、児童が当時の人々の思いや願い、取組の意図や目的を説明できるようになった。また、児童がその当時の国民が感じた切実さを捉えることができ、社会的事象への関心が持続するようになった。

第1～2時の記述からは、「解決しなくてはならない」と当時の国民になったつもりで条約改正に向けた課題を捉えている姿が見られる。そして重い意味をもつ条約改正が成功したことについて、問題を見いだしている。

第4～6時の記述には、当時の国民の立場で条約改正を目指した思いが表れており、そこには、当時の政府が取り組んでいたことが、条約改正につながったということを見いだそうとしている姿が見られる。これは、児童が主体的に知識を獲得していった姿と言える。

<共感的に捉えた児童の記述>

- 1時：なぜ日本人だけ助けてくれないのだろう。亡くなった家族のために、何としても法律で裁いてほしい。
- 2時：失敗ばかりしていたのに、条約改正ができたのはなぜだろう。何かきっかけがあったのではないか。
- 4時：近代国家として各国の信頼を少しずつ得た。
- 5時：日本は、いつ近代国家仲間入りしてもおかしくないはずだ。
- 6時：日清日露戦争を経て、日本の国力・地位が向上したことは間違いない。

○ 社会的事象を共感的に捉えてきたことを生かす学習活動の設定

社会的事象を共感的に捉えてきたことを生かす学習活動を設定したことで、どの時代の人々もよりよい社会をつくろうとしてきたと感じることができ、これからの社会に生かそうとする態度を育てることにつながった。

第7時①の記述には、外国からの評価が高まったこと背景にも注目して考えようとしている姿が見られる。学習して積み上げてきたものを、1枚の年表にまとめるようにしたことで、「条約改正の背景には社会をよりよくしたいと願う人々の姿がある」という共通点に注目するようになったと考えられる。

第7時②の記述からは、当時の人々が社会の課題に取り組んできた姿を、現代の様子に当てはめて考えようとしていることが分かる。ここでは、学習してきたことを、現代という視点から問い直すようにしたことで、自分もよりよい社会をつくる一員であることに気付くようになったと考えられる。

<共感的に捉えてきたことを生かしている児童の記述>

- 7時①：「条約改正成功の裏にはたゆまぬ努力」一条約を改正できたのは近代国家として認められたからだと考えていた。しかし、調べた四つの視点を見直すと、その裏にはたくさんの努力があったと思う。
- 7時②：私は、外国と関わっていく機会が多くなっていくであろう今の世の中では、努力やねばり強さが大切だと今までの学習を通して感じた。(中略)どの時代の人々も自分の国をよくするためにいろいろなことに取り組んできたということを学んだ。だからそれを大切にしたい。

VII 研究の課題

○ 共感的に捉えさせるために、立場を設定することは効果的であった。しかし、設定した立場によっては、歴史的事象を捉えにくくさせてしまうものがあった。そのため、立場を設定する際には、小単元のねらいを十分に吟味した上で取り上げる必要がある。

○ 共感的に捉えてきたことを生かすために、立場を変えて問い直す活動を設定したが、かえって小単元のねらいからそれてしまう児童がいた。そのため、立場を変えて問い直すことが、児童の考えをどのように広げるのかということについて明確にする必要がある。

平成26年度 教育研究員名簿

小 学 校 ・ 社 会

第3学年及び第4学年分科会

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
江戸川区	江戸川区立平井南小学校	主幹教諭	山本 美香
江東区	江東区立明治小学校	主任教諭	◎ 高橋 洋之
練馬区	練馬区立石神井西小学校	主任教諭	三芳 江里奈
江戸川区	江戸川区立葛西小学校	主任教諭	○ 辻 慎二
三鷹市	三鷹市立第六小学校	主任教諭	小松 信祐
日野市	日野市立日野第八小学校	主任教諭	萩原 農
東大和市	東大和市立第五小学校	主任教諭	小林 資郷

第5学年分科会

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
世田谷区	世田谷区立三軒茶屋小学校	主幹教諭	○ 和知 奈穂子
昭島市	昭島市立武蔵野小学校	主幹教諭	神菌 博之
板橋区	板橋区立板橋第十小学校	主任教諭	木本 武志
足立区	足立区立千寿常東小学校	主任教諭	石黒 友昭
葛飾区	葛飾区立上小松小学校	主任教諭	田辺 留美子
稲城市	稲城市立若葉台小学校	教 諭	長澤 慎哉
羽村市	羽村市立松林小学校	教 諭	中原 隆之

第6学年分科会

地 区	学 校 名	職 名	氏 名
千代田区	千代田区立和泉小学校	主任教諭	川嶋 美武
世田谷区	世田谷区立北沢小学校	主任教諭	田内 利美
杉並区	杉並区立堀之内小学校	主任教諭	横田 富信
練馬区	練馬区立練馬第二小学校	主任教諭	○ 小倉 哲治

◎全体世話人 ○分科会世話人

[担当] 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課

指導主事 秋田 博昭

平成26年度
教育研究員研究報告書

小学校・社会

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成26年度第186号〕

平成27年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 正和商事株式会社